

稲作だより ~第13号~

まだ間に合う！ 稲わら腐熟！！ 来年の茎数確保に向けて取組もう！

◎稲わら腐熟の効果

▼土壌の異常還元(ワキ)防止：

ワキの原因となる未分解の稲わらを減らし、ワキが強まることを防ぐ

▼根の伸長促進：

ワキによる硫化水素等の発生を抑え、根に与えるダメージを抑制する

▼初期の茎数確保：

根の生育が良好になることで、初期分げつが増加し、早期の茎数確保に役立つ

◎秋の浅耕による稲わら腐熟

効果：稲わらを土中に浅く混和し、土壌微生物の働きにより稲わらの腐熟分解を促進する

時期：刈取直後～日平均気温 10℃が確保できる時期

方法：耕深約 5cm で浅く耕起する

圃場外周や枕地など乾きにくい場所を避け、部分的に耕起しても効果あり！

圃場条件：実施時に圃場が一定程度乾いている

(排水不良田では、サブソイラー等で透水性を改善してから実施)

◎石灰窒素施用による稲わら腐熟

効果：土壌微生物の栄養源となる窒素を添加し、微生物のはたらきを活発にする

土壌を微生物の働きやすいpHに調整する

時期：刈取直後～日平均気温 10℃が確保できる範囲

方法：石灰窒素を圃場に散布（耕起は必ずしも必要ではない）

施用量は「つや姫」で 10kg/10a、その他品種で 20kg/10a

実施条件：玄米粗タンパク質含有率が毎年高い圃場や、全量基肥栽培圃場では施用しない

◎農作業事故注意！

農業機械の点検は、必ずエンジンを停止してから！

「北村山稲作情報」LINEはこちらから

【発行】 村山総合支庁北村山農業技術普及課 TEL0237-47-8631

